

令和6年度 学校図書館活用計画・評価シート

白地部分：計画策定時記入（年度当初）

水色部分：評価時記入（年度末）

足立区立第十一中学校 校長 高田 はつほ

1 学校教育目標

- ①広い視野に立ち深く考える人になろう。
- ②あたたかい思いやりを持ち、心にうるおいのある人になろう。
- ③すすんでものごとを行い、力いっぱい努力する人になろう。
- ④健康なからだをつくり、明るい心を持った人になろう。

2 現状の学校図書館の課題

- ①学校図書館を活用し、読書の楽しさを教え、心豊かな生徒を育てる。
- ②学校図書館の情報を効果的に活用し、主体的に学ぶ生徒を育てる。
- ③学校図書館を活用し、自分を表現できる生徒を育てる。
- ④読書に親しみ、読書習慣をもった生徒を育てる。

3 今年度の学校図書館の重点目標

- ①学校図書館を「読書センター」「学習・情報センター」として利活用するよう、推進を図る。
- ②生徒の読書活動を支援し、様々な情報を効率的に駆使できるように指導する。

4 今年度の重点的な取組

- ①学校図書館で学習が円滑にできるよう、環境を工夫する。
- ②読書時間を確保し、できるだけ図書館の本を読むような様々なアプローチをする。
- ③生徒が行きやすい、居やすい場所となるよう、司書と協力して環境整備に努める。

5 教科等における年間指導計画（対象学年は○数字で記載）

教科	内容（学校図書館の図書や資料を活用して取り組む単元等）
国語	①根拠を示して説明する②メディアの特徴を生かして情報を集める③情報を読み取って文章を書く
総合1年	魚沼自然学習における歴史や産業等を調べる
総合2年	職場体験に向けてさまざまな職業や進路について調べる
総合3年	修学旅行に向けて歴史や自分が設けたテーマについて学習する
美術	行事のしおりの表紙の資料を探し作品をしあげる
社会	「調べるコンクール」に向けて自分が必要な資料を探し、レポートを作成する

実践の評価

教科等における学校図書館や図書資料の利活用は、およそ国語科のみに偏ってしまっていた。国語科では各学年で図書館ガイダンスや単元によって図書館の利活用を行うことができた。調べ学習は主にインターネットを活用し、クロームブックを用いてスライドでレポートの作成、発表活動の流れができあがっている様子が見受けられる。流れを乱さず、学校図書館の利活用も検討していただけるような働きかけや、効果的な実践を提案していきたい。

6 図書館運営計画

(1) 日常的な取り組み

①読書時間の確保（週2回の朝読書）②学級文庫も利用する

(2) 主な行事等の取り組み

①読書週間年2回

(3) 図書委員会などの取り組み

①図書館便りの発行(年6回)②購入図書希望アンケート③クラスルームによる広報活動

(4) 環境整備の取り組み

①図書委員推薦図書コーナーの設置

(5) 司書・外部との連携

①学習に必要な本を迅速に取り寄せる。②授業への対応を迅速にするために資料を充実させる。

実践の評価

週2回の朝読書を実践することができた。また各クラスに学級文庫を設置し、年3回程度の入れ替えを行った。しかし年2回の読書週間は計画と実施をすることができなかつたため、来年度の課題である。

委員会の活動としての図書だよりの発行は、目標の年6回を達成することができなかつたが、3年生は2回、1・2年生は1回の計4回発行することができた。また、カウンター当番の活動の際に、新聞の切り抜きやPOPの製作、おすすめ本の紹介など、図書館の環境整備にも関わらせることができた。

学校司書と連携し、図書の購入希望アンケートを教職員と生徒を対象に行い、蔵書管理を行うことができた。また、学校司書が発行する図書だよりはクラスルームにアップし、廊下に掲示も行うなどして、図書館の新しい情報がいつでも得られるよう働きかけることができた。授業での図書館の利用について、学校司書と話し合いながら利活用を進めていくことができた。

計画の達成できていない部分について、来年度も引き続き達成できるよう働きかけていきたい。

7	学校図書館利活用に関する成果目標	達成基準	達成状況
①	朝読書を継続し、生徒一人が年間20冊以上の本を読むことを目標にさせる。	年度末に読書記録を確認する。	年間20冊以上の本を読んだ生徒は全12名で、卒業式予行練習の際に表彰していただいた。
②	年間の学習指導内容に合わせ、図書館を活用した学習を展開する。	教科の振り返りを通して確認する。	国語科で図書館を活用した学習を行った。
③	探究的な学習をICTと本、新聞など、複数の情報を活用して展開させる。	調べるコンクール等の出品状況で図る。	探究的な学習はインターネットでの情報収集が主で、学校図書館の利用はなかった。

8 学校図書館全体に関する自己評価

司書と連携して図書館の運営や委員会活動の活発化を図ることができた。生徒のやる気や意欲を引き出すような活動をし、落ち着いて読書できる環境整備に努めた。

一方で、ICTの推進に伴い、探究的な学習において図書や新聞など紙ベースでの資料・情報はほとんど活用されていないことが課題である。教職員や生徒全員がインターネットと図書、新聞のそれぞれの情報の正確性や利便性などを理解した上で、使い分けていく必要があるように感じる。

学校図書館が担う「読書センター」「学習センター」「情報センター」という役割を、まずは教職員に周知し、教科や学習での効果的な利活用を提案していきたい。